

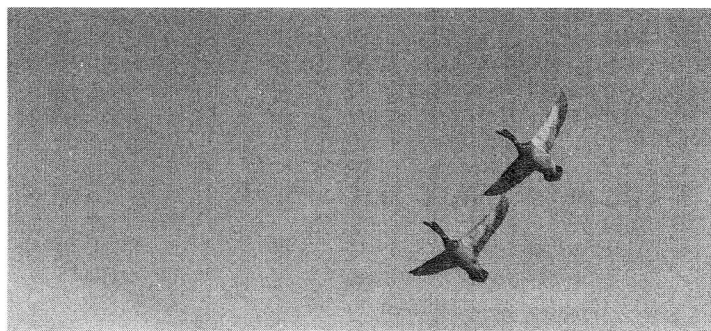


リサイクル

「リサイクル」だと思っていた。

地球の環境は思った以上の勢いで悪化しているようだ。温暖化が進み、それが原因と考えられる、今までに経験したことのないようなひどい災害が続いている。被災者の「自分が今まで生きてきて、このようなことは初めて」というコメントが必ずといっていいほど聞かれる。真剣に考えなければならぬ。

リサイクル運動について最近考え方が変わった。リサイクルといえば、人間が作り出したものをどのように処分するかが問題だと思っていた。ひと言でいえば「ゴミ」の処理問題だ。そして、捨てるだけでなく、それをどうにかして再利用できないかと考える。そのようなことが



「リサイクル」とは「サイクル」を取り戻すこと。「循環」していることをそのようにすること。

本来、あるべき自然の姿に戻すことだといえる。単に人間が作り出して、いらなくなったものを再利用することではない。地球レベルの、宇宙レベルの「循環」を取り戻すことである。地球の問題は宇宙の問題でもある。地球のバランスを崩すことは宇宙のバランスを崩すことにもなる。

人間は無から何かを造ることができないように、何かを無に戻すことはできない。人が物を作るとき、それは何かからまた新しい何かを造り出すことにすぎない。無から有を造り出すこ



山元 眞 神父
やまもと まこと

とはできない。それと同じように、物を無にすることはできない。別のものを造り出したように思えるが、実際はそれは形が変わったということであり、存在の様式が変わったにすぎない。ただ変えるだけで問題は解決しない。氷が溶ければ水になりものを焼けば形は消えても二酸化炭素が増える。大気汚染のために浄化装置を作っても追いつかない。自然そのものが持っている浄化作用よりすぐれたものを人は作ることはできない。

十五年ほど前、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開かれた国連の地球環境サミットでカナダ人の十二歳の少女がスピーチをした。「リオの伝説のスピーチ」

と呼ばれたこの感動的な六分間の演説も、もはや忘れ去られているようだ。「この星をこれ以上こわさないで」と世界各国のリーダーの前で訴えた。引用が長くなるが、この子のスピーチをもう一度よみがえらせた。

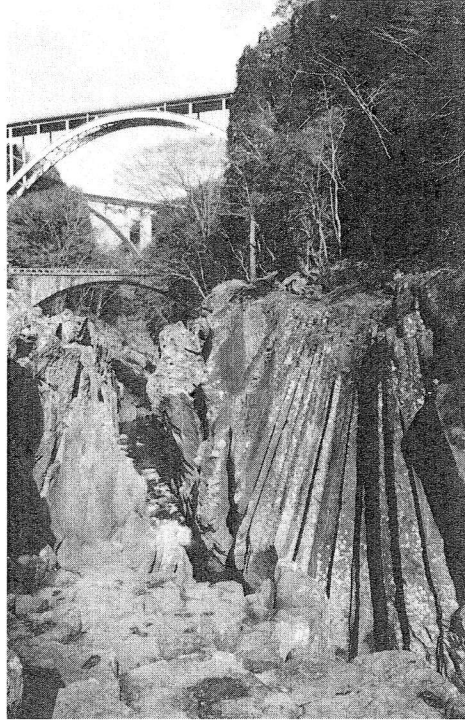
「私の世代には、夢があります。いつか野生の動物たちの群れや、たくさんさんの鳥や蝶が舞うジャングルを見ることがです。でも、私の子どもたちの世代は、もうそんな夢をもつこともできなくなるのではないかと？ あなたたちは、私ぐらの歳のときに、そんなことを心配したことがありますか。こんなに大変なことが、ものすごいいきおいで起こっているのに、私たち人間ときたら、まるでまだまだ余裕があるようなのんきな顔をしています。まだ子どもの私には、この危機を救うのになにをしたらいいのかはつ

きりわかりません。でも、あなたたち大人にも知ってほしいんです。あなたたちもよい解決法なんてもっていないっていうことを。

オゾン層にあいた穴をどうやってふさぐのか、あなたは知ら

どうやって直すのかわからないものを、こわしつづけるのはもうやめてください。」(セヴァン・カリス＝スズキ著/ナマケモノ倶楽部編・訳/学陽書房『あなたが世界を変える日』12歳の少女が環境サミットで語った

伝説のスピーチ



溪谷と3本の橋

ないでしょう。死んだ川にどうやってサケを呼びもどすのかあなたは知らないでしょう。絶滅した動物をどうやって生きかえらせるのか、あなたは知らないでしょう。そして、今や砂漠となってしまう場所はどうやって森をよみがえらせるのかあなたは知らないでしょう。

できないかぎり地球は滅びへの道を突き進む。すごい勢いで...。神は世界がよりすばらしいものに、完成に向かうように造られた。人間の力を借りて世界がより良いものに成るように。世界をこわしているのは神ではなく人間。今は悲しみの涙ではなく、悔やみの涙を流すとき。

環境問題をつきつめていけばそこに人間の果てしない欲望が見える。独りよがりで自分さえよければという欲望が。もっとももっとという貪欲が...。この欲をコントロール

＝善き隣人として奉仕する＝

葬儀の御用は弊社に

TEL 03-3702-0156 FAX 03-3702-0159

※御報参上・手続代行他。

〒158-0086 東京都世田谷区尾山台3-9-6

(株) 沼崎商会

サマリア式典部 沼崎 馨